

Title	2009年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	渡辺, 眞
Citation	デザイン理論. 2010, 55, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53489">https://doi.org/10.18910/53489</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 2009年度 意匠学会論文賞選考結果報告

意匠学会論文賞選考委員会

委員長 渡 辺 眞

2009年度（対象機関誌『デザイン理論』第53号，第54号）の論文賞の選考結果が下記のようにになりました。結果および経過をご報告いたします。

### 1. 2009年度論文賞受賞論文

奥田晶子

「誰が袖図」屏風制作の様相 ― 小袖モチーフにおける文様表現に関する考察を中心に ―

### 2. 受賞理由

受賞論文は、いわゆる「誰が袖図」屏風と呼ばれる小袖群の中の作例4点について、染織の文様表現技法特に「摺箔」の文様型の転用という仮説に関して、綿密に調査し、推論を行ったものです。染織型の転用という仮説はすでに先行研究において提示されており、奥田論文の意義がどこにあるのかという疑問もありましたが、「摺箔」用型の転用の可能性に論点を絞り、4作例について詳細に記述、検討し、仮説の妥当性の高さを検証しえている点が高く評価されました。また日本絵画史における「誰が袖図」屏風という位置づけを越える問題が浮かび上がっている点も注目されました。たとえば従来絵画として扱っていた古美術品をデザインの視点で見直す可能性です。新たなデザイン研究の端緒となる基盤を提供しているという評価でした。

### 3. 選考経過

『デザイン理論』第53号，第54号に掲載された学術論文および研究報告を対象として、第一次として上位5点の論文を選出しました。この際、神野由紀会員の論文も掲載されましたが、選考委員であるため、選考対象から辞退し、選考委員を務めていただくこととなりました。また今回は編集委員会の梅宮委員長から提供していただきましたそれぞれの論文についての査読内容を第一次選考の段階から選考委員に配布し、選考の参考資料といたしました。

1位5点，2位4点，3位3点，4位2点，5位1点という配点（複数同位あり）で集計

した結果、上記に推薦しました奥田論文が1位となりました。

ただ第一次の結果報告の段階から複数の選考委員より、全体の論文のレベルについて疑問が提起されていました。論文の水準の高さを保持するか、若手研究者の奨励という意義を重視するかという点の論議を含めて検討した結果、最終的には奥田論文を論文賞の推薦候補とすることを決定いたしました。

選考委員：太田喬夫，神野由紀，菅 靖子，並木誠士，藪 亨，横川公子，渡辺 眞